

第 26 回 N I E 全国大会 札幌大会

新しい学びを創る N I E

～家庭、教室、地域をむすぶ～

(2021 年 8 月 16 日 オンライン開催)

報告書

広島大学附属中・高等学校

鶴田 輝樹先生

2021 年 8 月 16 日に開催された、札幌での第 26 回 NIE 全国大会—新しい学びを創る NIE—は、昨年に引き続き、ライブ配信による全体会，オンデマンド配信による分科会の形態がとられた。未だ新型コロナウイルスの収束が見通せない中，対面での開催は実現できなかったものの，各学校とも新聞を活用した新しい学びの創造をテーマに，言語活動・体験的な活動等を取り入れ，次の学びへのステップにつながる NIE の取組が数多く見られた。

NIE 実践は，関口修司氏の提唱する枠組みを参考にすると大きく次の三つの活動としてまとめられ，またそれぞれの活動は新学習指導要領とも密接に関わっている。

- 新聞機能学習(新聞を知る)⇒社会的事象を知識として修得できる。読者に分かりやすく伝えようとする新聞の構成を知ること自体が，技能の育成につながる。
- 新聞制作学習(新聞をつくる)⇒自分の興味や関心をもったことに関する新聞を制作することで表現力が，自らの学習をまとめ振り返ることで次の学びに向かう力が身につく。
- 新聞活用学習(新聞記事を生かす)⇒新聞のまわし読み等で，個人で考えたことを意見交換したり，議論したりすることで，自分の考えをより妥当なものにする思考力・判断力を養うことができる。

今大会において授業公開された小学校・中学校・高等学校の計 8 校について，その枠組みをもとに分類すると以下の表のようになる。

学校	教科	学習活動	指導上の留意点	枠組み	
小学校	札幌市立桑園 小学校	国語科	<ul style="list-style-type: none"> 久保吉史さんの新聞記事「札幌駅前地下歩行空間」から「自分の主張を伝えるためにはどんな資料を選んだらよいのか」クラス全体で意見を出し合いながら考える。 桑園SDGsポスターを作って、全校児童や保護者に環境保護の呼びかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 双方向のやり取りができるようにするため、読んだ人が感想を書ける場を設置する。 子どもに記事を提示する際、記事に使われている写真を隠し、書き手の立場に立って、どんな資料があったら主張が伝わりやすくなるか考えさせる。 生徒の発問を細かく拾い、生徒の言葉で板書する。 	新聞機能学習
	札幌市立中央 小学校	社会科	<ul style="list-style-type: none"> 「元寇」と同時代にアイヌ民族と元軍が長い間戦っていた事実(教科書には取り上げられていない知識)を理解する。 アイヌ民族の交易の広がりに関する新聞記事から、当時の出来事が鎌倉幕府にどのような影響を与えたのか調べていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記事にある年表や地図から大まかな時系列や位置関係を捉えさせ、また前時の内容を再び想起させることで、幕府に影響があったのかという問題意識をもたせる。 歴史的な出来事と今日の自分たちの生活との関連性に気付かせる。 ICT教材を積極的に活用する。 	新聞活用学習
	札幌市立栄南 小学校	道徳科	<ul style="list-style-type: none"> パラリンピックに出場した谷真海さんに関する新聞記事「より速くへー谷真海」を読む。 真海さんはどんなことをがんばったのか、彼女が手にした大切なものについて、周りの人たちと意見を交換しながら考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段自分が頑張っていることを想起させ、本時の学習の見通しをもたせる。 新聞記事と教材文を組み合わせることで、努力は単に自分の頑張りだけでなく、様々な人の支えによって成り立っていることに気づきを促す。 	新聞活用学習
中学校	札幌市立真駒 内中学校	地理社会的分野	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記事「餌やり罰金」を通読し、賛否について様々な立場から確認することで、北海道の自然に対する人々の思いについて考える。 新聞記事「自然・歴史・共生の機運 知床」を読み、エコリズムの取り組みが進められていることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「北海道観光の現況2020」を提示し、観光客が「豊かな自然環境」を求めて北海道を訪れていることを確認させる。 写真などを活用し、自然環境と共存した観光の発展のあり方についてより深く考えさせる。 異なる意見を出させ、クラス全体で共有させる。 	新聞活用学習
	札幌市立あや め野中学校	道徳科	<ul style="list-style-type: none"> YouTubeの動画視聴により「心臓移植手術」について知る。 「医師を目指す高校生が大阪大学病院で心臓移植手術を見学した」という新聞記事を再現する。 教材の再現を通して、命の重さや大切さ、ドナーと患者の思いについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を、教材の場面を再現する体験的な活動である「動き」Iと、ホワイトボードとマグネットを活用した対話・交流を行う「動き」IIから構成する。 小型ホワイトボードに一人ずつ意見を書き、Classroomで全員のボード写真を共有させる。 	新聞活用学習
	札幌市立真栄 中学校	国語科	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記事「紙媒体かデジタル媒体か」について読む。 新聞記事を読み比べ、説得力があると考えられる点を個人でまとめる。 個人でまとめた表を基に、4人1組のグループ内で自分の考えを仲間説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視をしながら、生徒の学習に細かくアドバイスをしていく。 グループワークを行う上でタブレットを活用し、自分の意見や仲間の意見をより分かりやすく提示させる。 グループワークの結果考えたことが、他のグループにも共有できるように、ホワイトボードを使い、発表させる。 	新聞機能学習
高等学校	北海道札幌 南高等学校	総合的な探究の時間	<ul style="list-style-type: none"> 新聞のコラムを利用し、ワークシートを活用しながら、4人グループで感想を述べ合い400字のコラムを執筆する。 探究活動の結果発表のためのポスターセッションに、新聞等の情報ツールを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞社への掲載に同意した作品を投稿し、新聞記者からの講評も得て、自己評価へと繋げさせる。 英字新聞や新聞重視週間等を設けながら、各学年の担当者の意向も尊重し、ブラッシュアップを図る。 	新聞活用学習
	北海道恵庭 北高等学校	情報科	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記事「スマホは夜9時まで!」「子の半数以上認識せず」を読む。 保護者はなぜスマホの家庭内利用ルールを作るのかを考える。 保護者として守らせたいルール、自分が守らなければならないルールについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 15年後、20年後など自分が保護者の立場になることを想像させて書かせる。 メモを取らせることで、他者との思考の相違に気がつかせる。 考える時間を十分とり、多くの生徒に発表を促し、意見を共有する。 	新聞活用学習

各校とも学年段階・学校段階に応じた挑戦的なNIE実践の中で、生徒が主体的・対話的に学習に取り組む姿が随所に見られた。また、新聞の構成(写真・資料のレイアウト方法や記事の書き方)を学ぶことで、主張に合った資料を選ぶ力や説得力のある文章を書く力を育成しようとする試みは、まさに新聞の持つ特徴を十分に活かしたものであるといえる。さらに、教師の授業目標を実現するために、学習活動において効果的に新聞記事が学習材として取り上げられていた。一方で、このようにすぐれたNIE実践は、教師にとって授業準備の負担が大きいことが課題としてあげられる。どの教師でも気軽に再現可能な実践を積み重ねていくとともに、生徒だけでなく教師もやりがいの感じられるNIE実践の開発がこれからも求められる。

広島国際学院中学校・高等学校

為重 慎一先生

1：はじめに～「つながり」を考えることが新しい教育を切り開くキーワード

今年度全国大会もオンラインによる開催となった。教育に関わる者の本音として、あらゆる学びは、学びあう仲間との直接的な触れ合いから実感をしたいものである。2年連続の間接的な学びに対し、仕方がないと思う反面、残念に思う気持ちが強く出てきた。

だが今大会の主催者側は、私の思いを推し量るかのように、制約がある中でも、最大限の「つながり」を模索し、先進的なNIE実践や開催地区における実践例を創意工夫しながら発信されていた。本当に頭が下がる思いであった。

本報告では、今大会の内容を「注目ポイント」という形で報告していく。

簡単に総括すると、前回大会以上に、NIEに関わる人たちからの新鮮な意見や提案が出されており、とても鮮度の高い内容であった。また「つながり」が大会テーマに掲げられていることから、実践者（校）の中で完結するものではなく、実践から、その先の社会、未来につなげていく意識が高くみられた。特に、今日注目されている多様性（ダイバーシティ）が発表の軸となっていた。まさに今大会はNIEが次世代を切り開くツールであることを認識できるひと時であったといえる。

2：今大会の注目ポイント

（1）パネルディスカッション

～家庭、地域、学校という立場から「新しい学び」を議論する

NIEの主役は、国家でも大学等の研究者でもない。私たち一人ひとりが主役であり、NIEから良く生きるための知識を学び取っていくものである。だからこそ、今大会で企画された家庭、地域、学校（教師、生徒）がみるNIEの在り方は大変有益なものであった。

この企画では、①新聞を購読し生活のあらゆる場面で活用している家庭、②学習材として学校教育で活用、学んでいる教師、生徒、③地域社会とのつながりとして新聞を活用している地域住民、さらに④学校教育で社会貢献を目指す、元プロ野球選手の田中賢介氏の4者で大会テーマに沿った討論がなされた。

NIEの専門家ではなく、生活、学び、社会の日常で活用している4者の話で印象的だったことは、新聞に馳せる想いに、多様性がみられたことである。例えば、家庭からみる新聞は、地域や自らに関係する業界を知るツールとして。また住んでいる地域とは異なる社会を把握する情報源として。学校は、学習材、進路指導の情報源としての媒体であること。地域や田中氏は、自他に影響力を持ち、様々な評価をしてくれる指標であるとの感想を出されていた。そのような4者の多様な意見によって「お互いの知りたいこと、知らないことを理解し共有できる」会であった。

他方、「新聞のある生活」と題した討論では、各紙「子ども新聞」の発行数が増えたことが取り上げられ、子どもの社会を知る情報源として新聞が重要性であることが紹介さ

れた。

立場によって触れる新聞は異なっても、それぞれに、社会にとって意味のある新聞の活用法があることが、パネルディスカッションで提案された。まるで、家族の中で新聞を通して様々な話題を持ち出し団欒するひと時であったと思う。

ぜひ、次回大会また広島県NIE学習会においても、異なる立場の人たちによるディスカッションを推進し、新しいNIEの学びを模索してもらえれば幸いである。

(2) 今大会実践発表の注目ポイント(報告者の一押し)～特別支援教育におけるNIE

新聞から情報を読み取り、自らの考えを創出する、または得た知識を様々な活動に転用していく…私たちの学びの中で、どこか当たり前に思うことも、何らかの障がいをもつ人にとっては、必要以上の苦労や理解する工夫が必要となる。

現代社会で「多様性」が進む中、民族、性差、文化の違いに注目するだけでなく、「どのような生徒でも等しく学ぶ機会を作る」という方針は大切にしなければならない。**岩見沢高等養護学校**は、生徒が抱える新聞に対する「壁」を取り払う所から、生徒の学びやすい環境を作っている。また生徒が自らに向き合うため、現代社会の授業で学ぶ「国会」や「福祉政策」に関する内容について、該当する新聞を提示しながら、「自分ごと」として生徒たちが分析や主張を行う機会を設けていた。社会と生徒がつながり、明日をみつめる実践であると感じた。

札幌市立藤野中学校特別支援学級の発表では、生徒の進路、職業観を考えさせる題材として新聞を活用したことを紹介。SDGsを題材としながら、興味関心の幅が狭い、情緒、知的障がいをもつ生徒達に社会への関心を育む工夫がされていた。本発表で特徴的だったことは、該当生徒に対する視覚的配慮、学習手順を教師が創意工夫しながら提示していた点にある。「学習の可視化」や「何をどのように学ぶか」といった配慮は、支援学級だからこそ今日の教育界に発信できる教授方法の基礎であると思われる。

特別支援に対する保護者や児童生徒からのニーズは、年を追うごと全国的に高まっている。一方で、未だその対応が十分といえない教育界の現実がある。広島県における教育環境は他県に比べても充実しているとはいえない。どこにいても、誰もが分かりやすい教育を受ける「インクルーシブ教育」を推進していくためにも、特別支援教育でのNIE活動が充実した教育への一石を投じてくれればと願う。

(3) その他の見どころ①：記事データベース、学校図書館に関するNIE

その他、報告者が注目した点は、**函館市立亀田中学校**の「**中学校社会科「記事データベースを活用した実践」**」や**小樽市立桜町中学校**学校(学校図書館「**教育環境づくりに寄与する学校図書館**」)、**札幌市立手稲中学校・稲積中学校**学校ほか(「**学校諸課題とつながり、学びを広げるNIE**」～**学校図書館が主体的に行う実践**～)による**学校図書館とNIE**に関する報告である。これからの学校教育における課題は、大量の情報を効果的に収集、整理する方法と学校図書館の活用法である。活字離れが進む今日の社会にあって、活字にいかに関わりさせ、親しませるかは、新聞情報の使いやすさと、得た情報からその他の文献に触れさせる機会を導き出すことである。一連の流れを、上記学校では効果的に活用している点に注目がいく。

③その他の見どころ(2): アイヌ文化学習とNIE

NIEの大きな魅力は、地域の独自性を最適な学習ツールに変換できること。さらに、地域の出来事を読者が学び、それを全国に発信するつながりを生み出すことである。北海道の独自性で、全国に発信すべき内容といえば「アイヌ文化」である。日本が古来より様々な民族によって構成される国家であることを物語る代表例として、また今日の差別のない社会を確立するためにも、私たちは風化させてはならない文化であると思われる。**新ひだか町立三石中学校の実践(中学校社会科地理的分野「北海道地方」～自然環境を中心に考えよう～ 公民的分野「私たちにできること」)**や**北海道北見北斗高等学校の実践(高等学校現代社会「アイヌ民族の格差問題」)**は、地域から現代日本が学ぶべき課題として、つながりを生み出すきっかけづくりになると思われる。